

4-2 リノベーションテーマ

丹波並木道中央公園のリノベーションテーマおよびキーワードを以下の通り設定する。

リノベーションテーマ：恐竜と丹波の森を活かした地域・観光振興

キーワード：

恐竜

丹波の森

観光

4-3 リノベーション方針

公園の成り立ちや各施設の利用状況、周辺施設の状況等から総合的に判断し、「新規施設導入」、「機能の更新」、「機能の維持・保全」に分類したリノベーション方針を示す。
対応については、今後、管理運営協議会等で詳細を議論することとする。
なお、実施に当たっては、財政状況・施設の運営状況・社会情勢（ポストコロナ・SDGs 等）を考慮し、県民全体のサービス向上に資するように努める。

(1) 現状と課題及び方針

：新規施設導入 ：機能の更新 ：機能の維持・保全

キーワード	施設名等	利用状況	課題	対応（○ハード、■ソフト）
丹波の森	森の聖域ゾーン	●森林活動センター事業の一環として里山管理体験を実施。	●樹木の高木化が著しく、強風等による倒木等が懸念される。	機能の維持・保全 ○■住民参画での森の作業は継続しつつ、森林全体の間伐計画の策定及び間伐の実施
	棚田	●赤米の田植えや収穫、灰屋で肥料づくり、蕁を使ったしめ縄づくり体験の実施。学校等が実施する自然環境体験学習を受け入れている。	●学校の予算削減等により、校外学習の団体予約が減少傾向にある。	機能の維持・保全 ■学校中心ではなく、子育てグループなど参画のターゲットを拡充
	森林活動センター	●間伐材を活用した木工講座の実施。木工サポーターによる活動支援がある。	●園内の間伐材をベンチ等の補修や木工教室に利用する等、その有効活用に取り組む必要がある。	機能の維持・保全 ■幼児用の手作り木製遊具の製作と活用 ■木のおもちゃの貸出による子どもが楽しく遊べる空間の提供
恐竜 観光	管理事務所、かやぶき民家	(管理事務所) ●トイレ利用が多い、会議室利用は少ない、隣接広場では手作り遊具を使った親子利用が多い。 (かやぶき民家) ●カフェイベントや昔あそび会等のイベントを実施。	(管理事務所) ●床が木製のため、トイレに行く場合、入り口でスリッパに履き替える必要があり、車イスが使えない。 ●授乳室がない。	機能の更新 ○バリアフリー対応の実施 ○授乳室の設置
	遊具 (ローラーすべり台)	●約 50mのすべり台であり、子どもの遊び場として利用されている。	●子供連れ利用が多い公園であるのに、遊具の数が少ない。	新規施設導入 ○恐竜遊具等の遊具の増設
	恐竜体験施設	●屋内施設として篠山市立太古の生きもの館が園内に設置してある他、屋外イベントとして化石発掘体験を太古の生きもの館及び人と自然の博物館が実施。篠山層群の露頭見学スペースや化石発掘体験スペースを備えている。	●園内で恐竜化石が発掘された事実や、園内にある太古の生き物館が、公園で活かされていない。 ●滞在時間が短い。	新規施設導入 ■恐竜発掘地としての本公園の活性化及び、多様な恐竜が発掘されている丹波地域の観光振興のため、園内にある太古の生きもの館や県民局、市と連携 ○■恐竜をテーマとした新たな公園施設の整備(恐竜遊具、恐竜モニュメント、恐竜ベンチ、ARソフト) ■人と自然の博物館やいきもの館と連携した、化石発掘体験の充実、発掘体験ボランティアの育成
	登山路	●ノルディックウォーキング等のイベントを実施。 ●普段のウォーキングに利用。	●山頂や麓までの案内が不十分である。 ●樹林地では、樹木の生長に伴う高木化が著しいため、倒木対策等の安全対策が必要である。	機能の維持・保全 ○間伐材等を利用したサインの充実 ○樹木の伐採による安全・眺望の確保
観光	サイクルステーション	●ひょうごサイクリングモデルルート“兵庫丹波チャレンジ 200”(R2.7)のスタート／ゴール地点となっている。	●ひょうごサイクリングモデルルートのスタート／ゴール地点として位置づけられているが、サイクリストの休養施設がない。	新規施設導入 ○サイクルステーションの整備 ○休養施設等のサイクリストの自転車利用環境の整備 ■園路での自転車利用のルール作り(歩行者の安全対策の検討)
その他	駐車場	●車での上園が約9割を占める。	●土日祝日は駐車場が満車になるため、芝生広場に臨時駐車場を設けているが、車両対応が不十分である。	機能の更新 ○臨時駐車場の車両対応整備や、新たな駐車場の増設
	並木道	●公園利用者が通行。	●公園の名称になっている並木道のケヤキが弱っている。	機能の維持・保全 ■樹勢回復や樹種変更等の検討

キーワード	施設名等	利用状況	課 題	対応（○ハード、■ソフト）
管理運営	管理運営協議会	●年2回開催している。	●プログラムの活性化などに向けた事業費の確保が必要である。 ●木工スタッフが高齢化している。	■間伐材を用いたベンチなどを製作し他公園へ販売するなど自主財源を確保する仕組みづくり ■住民や企業等の参画・協働など木工イベントが継続的に行える仕組みづくり

（２）公園をとりまく社会情勢の変化への対応

コロナ後等の社会情勢を見据え、施設の新たな活用を検討するとともに、SDGs 達成を目指した取り組みを推進する。 （ポストコロナ） ○■「3密」回避できるセルフレクリエーションの推進 ・ハイキングやトレイルランニング、サイクリング等の利用促進のための環境整備 ○■公園内外のマイクロツーリズムの展開 ・市や人と自然の博物館との連携による、恐竜をテーマとした取り組みの実施 ・市や関係機関等との連携による、サイクリングでの地域活性 （グリーンインフラ） ○施設の修繕・新規整備の際は、透水性舗装化等の貯留・浸透機能を有効に活用

(3) リノベーション方針図 (○ハード、■ソフト)

